復興を願って！

このレポートは 2013 年 5 月 14 日、仙台市在住の友人武藤亮吾様、武藤都様に被災地を案内していただき作成できました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

＊下線部クリックで写真が見られます

5 月中旬に現地を訪れましたが、まだまだ爪痕が残っており、急ピッチで復興工事が行われている様子も拝見しました。今もケアーが必要な方々も多く、大変な課題も山積しています。被災地の一日も早い復興と平安な生活を願っています。

被災から2年2ヶ月と3日経った仙台市内の様子

仙台空港付近

2011 年 3 月 11 日に津波が押し寄せた高速道路付近

津波の塩害で立木が無惨

仙台港フェリー埠頭付近

青葉城跡

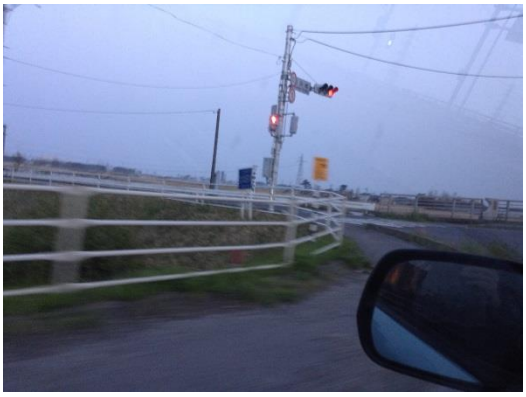
青葉城から仙台市を一望

ここからは武藤夫妻に案内していただきました。

仮設住宅（仙台市）

まだ全国各地からの支援トラックや重機も沢山見られる。

蒲生干潟に向かう途中の風景

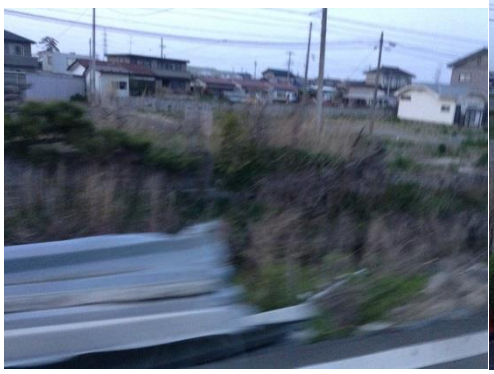


ポツリポツリと残る民家。周りは破壊されている。家の形は残っているが空き家の状態。

http://www.youtube.com/watch?v=6h--Jbq_SWc

（津波直後の蒲生地区付近　YouTube より）

被害の残る道路、まだまだ凄ましさが！


住宅も壊れたままで残っている

奇跡的にお地蔵様だけが無事残っていた！

夕暮れが近い中、復興工事が続いていた

瓦礫の山また山

被災し消えていく仙台市立中野小学校（宮城野区）跡地

3 月から解体工事が開始された。

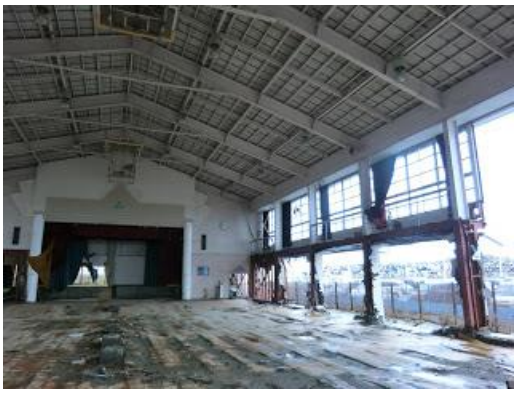
以下は解説のため、宮城県復興応援ブログ（ココロ・プレス）を一部転載させていただきました。

http://kokoropress.blogspot.jp/2013/04/blog-post_1352.html（ココロ・プレスより）

「お別れ会」には約 1500 人が参加しました

台市の東部、宮城野区中野字西原地区。七北田川の左岸にあるその校舎は、動植物の宝庫と知られる河口左岸の「蒲生干潟」へは約 1 ㎞と、海岸線から極めて近いロケーションにありました。
創立は明治 6 年という歴史のある学校で、昭和 46 年に仙台新港ができるのに合わせ、現宮城野区港 2 丁目付近から現在地に移転してきました。現校舎は平成 3 年に建てられ、平成 9 年に増改築されています。2 年前の震災当日。児童や職員のほか地域住民ら 600 人余りが避難する校舎を、高さ 4.5m の津波が襲い、2 階の床上 20cm までを水没させました。
避難者は全員が屋上に駆け上がり、一人も犠牲者を出しませんでしたが、水が引いた 2 階で小雪の降る寒い一晩を過ごしました。この時の記憶は、校舎や体育館の外壁が打ち抜かれるという、痛々しい風景として残っています。現在の中野小学校は、内陸部にある中野栄小学校（宮城野区栄 3 丁目）を間借りし、授業を続けています。平成 25 年 4 月の時点で、在校生数は 68 人と、震災時の 155 人から大きく減少しています。

側面が無くなった校舎 1 階部分。奥に見えるのが教室の黒板



津波によって壁面が打ち破られた体育館

4 月 7 日、このかつての学びやで校舎や体育館、プールの「お別れ会」（市教育委員会主催）が開かれ、在校生や保護者、卒業生、地域住民など約 1500 人が集まり、別れを惜しみました。
冒頭、震災で犠牲となった学区内の住民に哀悼の意を表し、1 分間の黙とうが行われました。

高橋充・前校長は「この校舎で学んだことを大きな誇りとし、堂々と胸を張って歩んでください」と、卒業生らを励ましました。伊藤新一郎・同窓会長は「長年築かれた地域の文化や人の絆が、一瞬にして失われることになったのは残念です」と、震災を悔やみました。

式典の初めに、学区内の犠牲者を悼む黙とうが捧げられました

そして、今春中野小学校を巣立った 2 人が代表して、校舎へ感謝の気持ちを伝えました。仙台市立高砂中学校 1 年の山本愛実さんは、「楽しい時、悲しい時にいつも一緒にいてくれたこと、震災の時に守ってくれたことをいつまでも忘れません」と話しました。同じく高砂中学校 1 年の佐藤啓太さんは、「中野小で過ごした楽しい日々を絶対に忘れません。そして、皆さんもずっと、ここに小学校があったことを忘れないでください」と、参加者に呼び掛けました。

山本さん（左）と佐藤さんが、校舎へ感謝の思いを込めました

この後、同校で 20 年以上受け継がれてきたという和太鼓の力強い演奏が、6 年生と今春の卒業生約 20 人によって披露されました。校歌斉唱の際には、世代を超えて、親しんだメロディーと歌詞を口にする光景が見られ、感極まって涙を流す人も少なくありませんでした。この日の記憶として屋上から記念の写真撮影が行われたほか、未来への風船が放たれ、花火が打ち上

げられました。

勇壮な和太鼓演奏で校舎に別れを告げました

校歌斉唱では、どなたも感慨はひとしおのようでした

屋上のカメラから、参加者全員が入る記念写真が撮影されました

式典終了後は 1 時間ほど、校内への立ち入りが許されました。在校生や卒業生らは、廊下や教室の壁面にメッセージを書き入れたり、教室で同級生同士が写真を撮ったりして、母校に別れを告げていました。
卒業生という栃木県在住の長谷川朋希さん（37）は、同級生と事前に連絡を取り合い、この日のために駆け付けました。「1 クラスしかなく、みんな団結力がありました。中野小ならではの野鳥観察の授業などがあって、楽しい小学生生活を送りました」。
自身と子ども 2 人が卒業生で、子ども 1 人が在校中という金子洋子さん（45）。借り上げ住宅に住んでいるため、地元の人には久しぶりに会ったといいます。「お互いに、自分の学校が無くなるのは寂しい、と話しました」。
「一番元気にしていた頃で、先生たちにはいっぱい迷惑を掛けました。いまはそれが懐かしいです」と、松谷友紀さん（26）。同級生の安彦麻衣さん（26）も、「一番楽しかったのは小学校。2 クラスしかなくて、みんな仲が良くて、いつも鬼ごっこなどをしていました」と話していました。
仙台市教育委員会によると、中野小学校の校地は災害危険区域内にあり、学校施設としては再利用できません。また、一部について県が施工する七北田川河川堤防整備の予定地に入ることから、学校跡施設の利用も困難と判断。全施設を解体するに至ったといいます。
また、学区内で多くの住宅地が災害危険区域に指定され、地域住民の区域外移転が見込まれているため、3 年後を目安に他校との統合を検討しているといいます。
復興に向けてさまざまなものが動いていく中で、人々の記憶の中には、輝く日々とともに中野小学校が、いつまでも残り続けると確信させるこの日のイベントになりました。
（取材日　平成 25 年 4 月 7 日）

私が訪れた時の中野小学校のプール跡（2013 年 5 月 14 日）

プールの飛び込み台が確認できる。無惨で痛々しい。

復興作業が急ピッチで行われていた。

津波でぶち抜かれ布団が露出したまま 2 年経過した民家。衝撃だ！

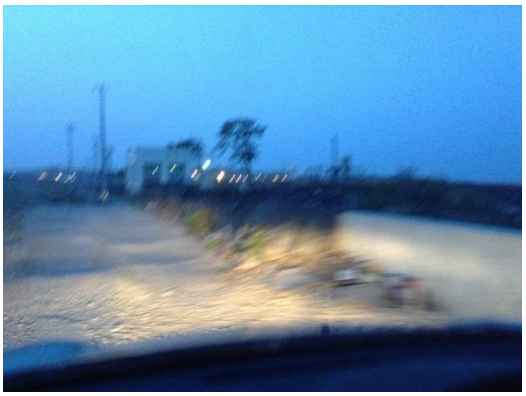
この写真ははいつ見てもショックだ！

合同慰霊祭が行われた蒲生地区にある日和山公園（仙台市立中野小学校付近）
ここで武藤ファミリーと共に「御霊安らかに」とお祈りさせていただきました。

野鳥の宝庫、夏は潮干狩りや海水浴でにぎわった蒲生干潟も無惨な姿になってしまった。
胸が詰まってくる。

http://www.youtube.com/watch?v=yjVz3OsASrE
（蒲生干潟と日和山の現状　YouTube より）

まだまだ手つかずの状態の所もある



日和山の跡地

仙台市にかつて存在した元祖日本一低い山のこと。
2011 年 3 月 11 日に津波を直撃し消失した。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E5%92%8C%E5%B1%B1_(%E4%BB%99%E5%8F%B0%E5%B8%82)（日和山）

冥福を祈る武藤先生親子

夕闇の蒲生干潟。心にこみ上げてくるものがあり思わず合掌した。

海岸を離れ数分で、キリンビール仙台工場や三井アウトレットパークの観覧車が見える所にやってきた。
ここももの凄く津波が押し寄せて被害が大きかった場所だが、活気が出てきているようだった。

この日は武藤ご夫妻がお忙しい中にもかかわらずあちこちを案内してくださいました。
お陰で蒲生干潟の慰霊塔では被災された方々のご冥福をお祈りすることができました。
また、限られた時間内ではありましたが被災状況を垣間見て、お話をお聞きして災害のものすごさを実感いたしました。
しかし復興しつつある状況も感じることが出来ました。武藤ご夫妻にはここに改めて感謝申し上げます。
被災地が一日でも早く復興され、被災された方々が平安な生活に戻れますようにと願いつつ仙台を後にいたしました。